

261US\$でできる国際貢献

2005 年 1 月、ジンバブエ共和国の首都ハラレからバスを乗り継ぎながら 8 時間かけて南部の半乾燥地帯にある Zvishavane に到着した。今回の訪問の主な目的は、ローカル NGO である Zvishavane Water Project (ZWP) がマスカット基金の支援を受けて実施している Seed Loan Program の進捗を調査することにある。ZWP は、これまでの AAINews28、29、36、38 号で紹介してきたように、半乾燥地域でコミュニティに密着した水の確保とその利用を基本にした中小規模のダム建設、グループガーデンやキッチンガーデンによる野菜栽培支援、雨水の集水・利用、土壌・水保全などのプロジェクトを展開している。

今回 4 つのグループガーデンを調査して、以下のことがわかってきた。ZWP はこの 2 年間でトマト、butter nut (カボチャの仲間)、sugar bean (マメの仲間) などをグループガーデンに有望な野菜として選定してきた。Seed Loan Program の下では、2002 年から現在まで 20 のグループガーデン、1,744 メンバーに野菜種子購入のための資金を無利子で貸し、技術的アドバイスを提供するというサービスを実施してきた。貸した資金には野菜収穫後の返済が義務付けられており、ローンの返済が遅れるグループガーデンはあるものの、最終的にすべて回収し原資が減ることもなく現在まで運用されている。家族構成がおよそ 5 人として 8,720 人がこのローンの恩恵をうけたことになる。聞き取り調査の結果、野菜販売収入が教育や医療や家財道具購入へ使われていることもわかった。また、あるグループでは野菜の収穫期間に限定された頼母子講をはじめている。こうして、まとまった現金を簡単に借りられるシステムも機能しはじめたようだ。さらに、青果物の共同出荷の動きもはじまっている。

しかし、激しいインフレに対して、原資額 297,000 ジンバブエ・ドル (現在の公定レートでおよそ 48US\$) では、移動手段である車両の燃料代の手当てもつかず、ローンを希望しているほかのグループへこのサービスを波及できない状況にある。ZWP は新たな 16 のグループガーデンと 50 のキッチンガーデンへこのローンを展開するために、原資の増加を検討していた。それもただ種子購入資金だけを増加するのではなく、交通手段としてのガソリン代、インフレーション対策のための臨時費の必要性も感じていた。計画の実施に必要な資金を見積もってもらったところ、合計 261US\$ を計上してきた。過去の実績から、この小さな増資が多くメンバーによって有効に利用されることは間違いないと感じ、マスカット基金としての支援を受け入れた。261US\$ というとても小さな金額ではあるが、その金額以上に非常に大きな貢献が出来るのではないかと、という予感がしている。

ZWP は実証農場を立ち上げて、国内各地から収集したトウモロコシ、トマト、オクラ、カボチャの OPV (Open Pollinated Variety) の採種事業にも取り組みはじめています。いつまでも Seed Loan Program で野菜種子を提供し続けることは不可能で、採種技術を蓄積して農家へ伝えたいと ZWP の関係者は話してくれた。同時に、ZWP は野菜の採種技術、栽培技術の協力をわたくし達に求めてきている。今後、こうした技術協力を継続することが、将来的には ZWP の仲間が JICA 筑波で実施中の南部アフリカ地域特設野菜・畑作技術コースへ参加することへとつながり、人的資源開発に発展していけばと考えている。行政に頼らず、農民自身が力をつけて自信をもっていくことを直接支援しているこの ZWP と一緒にわたくし達が地道に協力していくことが、現地に住む農民の自立への早道なのだと今回の出張を通して強く感じた。

(2005 年 1 月、小野)



メンバーの陽気なおバチャン達



ZWP の中心人物: Director の Ms. Irene Dube (右から二人目) と Project Officer の Mr. Clever Khumalo (右端)